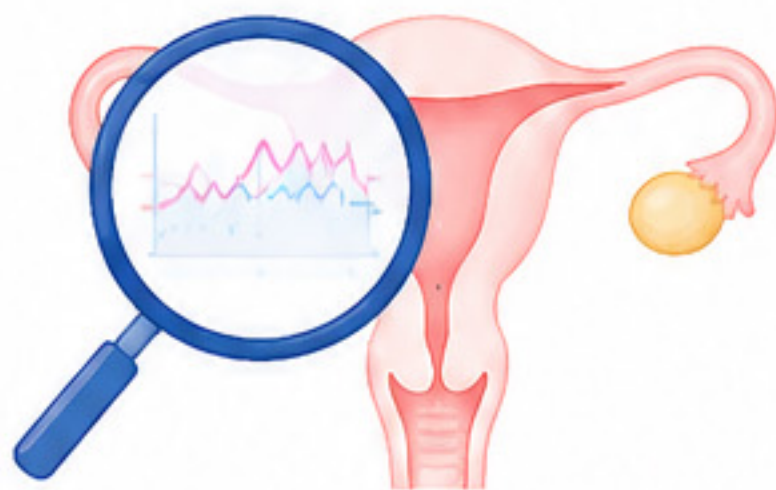


不妊治療 先進医療について

ERA検査

子宮内膜の着床能（受容能）を調べる検査です。



子宮内膜の遺伝子発現を解析し、圧が着床しやすい時期（着床の窓）を特定します。
個々に最適な胚移植のタイミングを見つけることができます。

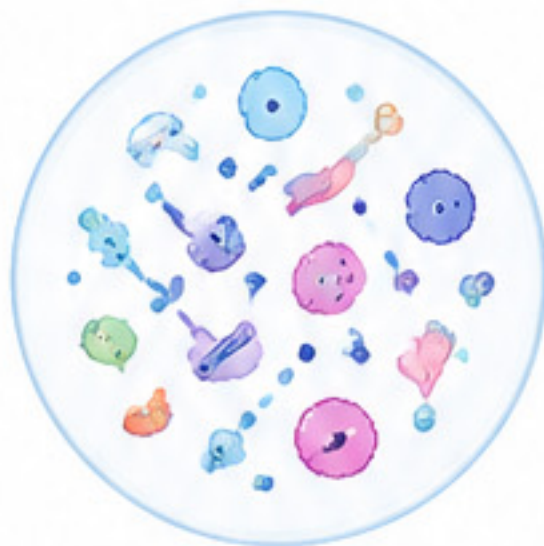
対象

反復着床不全の方、着床のタイミングが合わない可能性がある方など

費用 115,000円（税込）

EMMA/ALICE検査

子宮内膜の細菌叢（フローラ）を調べ、着床環境を評価する検査です。



EMMA検査でラクトバチルス菌の割合を調べ、ALICE検査で有害菌の有無や胚着床に影響を与える菌の存在を調べます。
子宮内フローラの状態を改善し、妊娠率の向上が期待できます。

対象

反復着床不全の方、流産を繰り返す方、子宮内環境を整えたい方など

費用 60,000円（税込）

子宮内膜フローラ検査

子宮内の細菌バランスを網羅的に解析し、着床に適した環境かを評価します。



最新の解析技術で子宮内フローラを評価し、バランスの乱れを改善することで、着床環境の最適化を目指します。

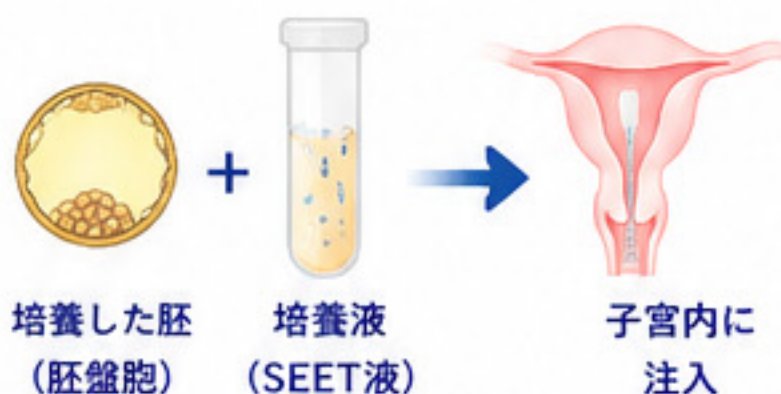
対象

反復着床不全の方、流産を繰り返す方、子宮内環境を整えたい方など

費用 44,000円（税込）

SEET法

胚を培養した際の培養液を移植の2～3日前に子宮内に注入し、着床しやすい環境を整える方法です。



培養した胚（胚盤胞） + 培養液（SEET液） → 子宮内に注入

胚移植の数日前に、胚を培養した際の培養液を子宮内に注入することで、胚由来のシグナルをあらかじめ子宮内膜に届け、着床に向けた環境づくりを行います。

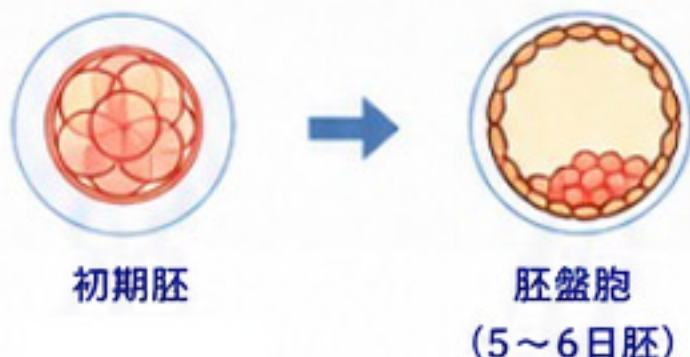
対象

反復着床不全の方、着床率の向上を目指したい方など

費用 10,000円（税込）

二段階胚移植

同一周期に初期胚と胚盤胞を一つずつ移植する方法です。



初期胚を先に移植することで子宮内の着床環境を整え、次に移植する胚盤胞をより高い確率で着床させることが狙いです。
この方法は、反復ART不成功例に対する移植方法として用いられています。

【二段階胚移植の注意点】

- ・凍結した「初期胚」と「胚盤胞」の二つの胚が必要となります。

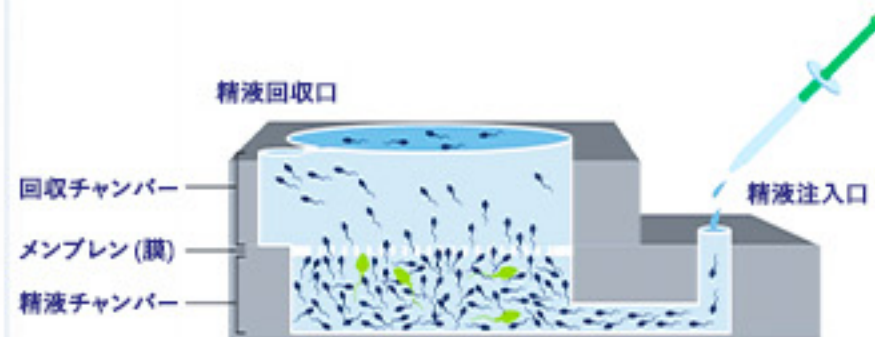
対象

反復着床不全の方、着床率の向上を目指したい方など

費用 65,000円（税込）

ザイモート

遠心分離を行わず、特殊なフィルターを用いて運動性の良い良好精子を選別する精子調整方法です。



精液をフィルター（8μmの微細な穴）を通すプレートに入れて静置し、フィルターを滑り抜けて泳ぎ上がってきた精子を回収します。
遠心分離によるストレスを与えずに良好精子を回収できるため、体外受精・顕微授精の培養成績の向上、妊娠率の上昇、流産率の低下が認められたという報告があります。

対象

精子の質に不安がある方、体外受精・顕微授精の成功率を高めたい方など

費用 25,000円（税込）